



Gochijapa Project

CONTENTS

第 1 章__事業概要

事業の背景、目的、取組の流れ、食育レシピ

第 2 章__活動内容

世代別での活動内容

第 3 章__「ごちジャパプロジェクト」 広報活動に関する報告

HP・Facebook・クックパッドの Web 媒体の解析から

第 4 章__効果分析結果

アンケートによる効果検証、生化学データによる効果検証



第1章

事業概要



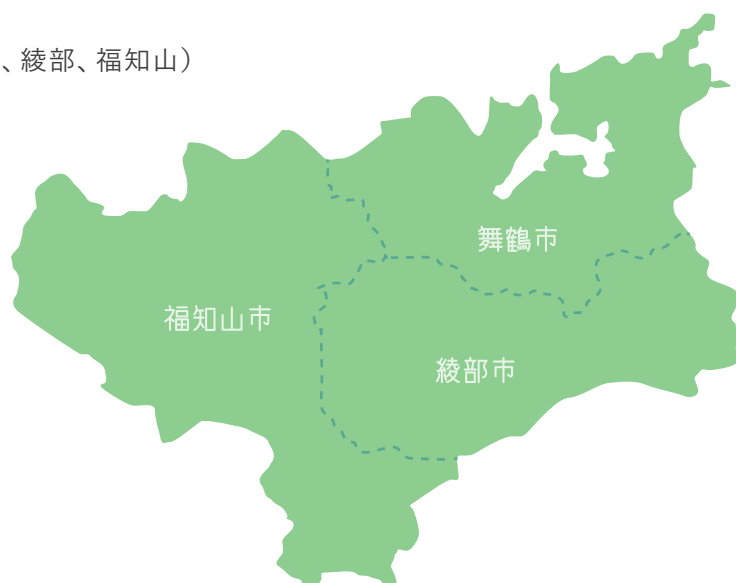
お兄さん：唐揚げがどうしても食べたい時はどうしたら？

講師：適正量なら問題ないですよ。

お兄さん：毎日食べたいんです！！

主な活動地域

京都府北部中丹3市（舞鶴、綾部、福知山）



事業の背景

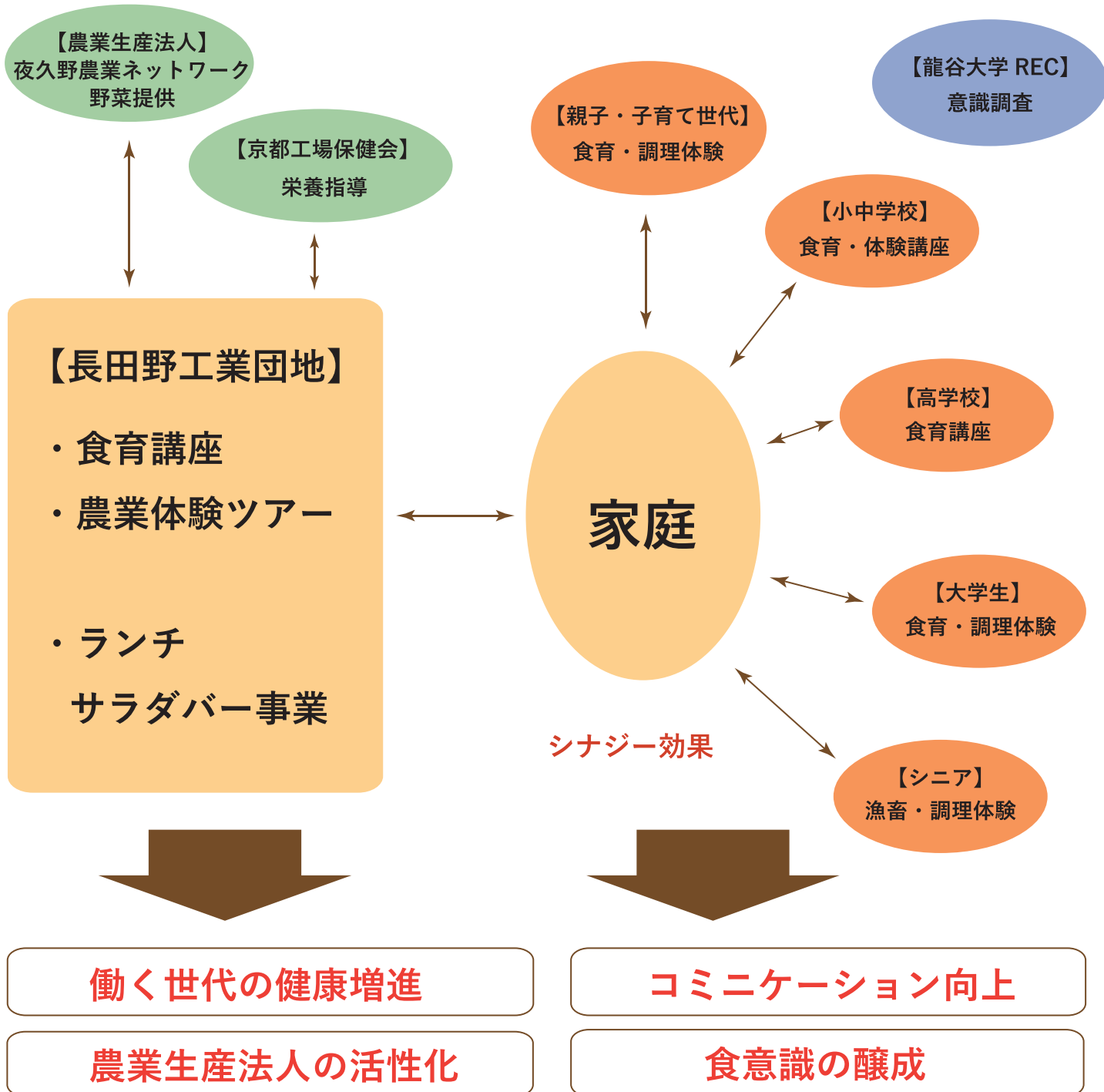
地産地消、国内生産品、日本ブランド食品で作る和食と日本型食生活が日本人の健康を創造する。その日本型食生活を根底で支える農業・漁業である。しかし、現在の日本の農業・漁業は生産者の高齢化、後継者不足、マーケティング力不足等の厳しい現状に直面している。安定した供給先の構築・開拓を支援し、消費者に直接生産物または情報を届けるシステムを確立することで、日本の農業・漁業の保全を図る。

目的

地域に密着した組織（企業・学校・団体など）それぞれのニーズに応じた継続的支援と農業の・漁業体験を行うことで、日本型食生活への理解向上と健康な食生活を喚起する。

また、弊機構が京都府立農業大学校と連携したヒヤリング調査では、農業生産法人のWEB発信はわずか15%であった。これは生産者が知られておらず、理解もされていないことを意味している。本事業においては、活動告知・報告、栄養バランスなどの情報を発信することで、食や農林水産への理解向上を目指す。

地域密着型 ごちジャパプロジェクト



福知山市長田野工業団地を中心とした地域をモデルとした食育醸成プログラム。

働く世代となる工業団地において食育講座を展開し、同時に工業団地従業員の居住区内学校においても食育講座を展開。家庭内でのコミュニケーションによるシナジー効果を狙う。

食育のレシピ ～活動の流れ～

ごちジャパプロジェクトでは「食育」を実施する上で「食について考えるキッカケとなるもの」を意識し、イベントや体験などいろいろな手法を用いて「食」について考えていただくことを大切にしました。

調査・ヒアリング



地域や団体、企業などによってニーズはさまざま。ヒアリング・調査の段階では相手のニーズをしっかりと把握することが大切である。相手によっては「食育をしたい！でも、どうしたらいいのか分からない」という方もいる。その場合は話を聞き、ニーズを明確にする必要がある。また、対象者・人数や場所なども次の企画段階で重きを置くところになる。

企画



相手のニーズを把握したら、今度は食育の内容を考える企画の段階となる。食育を通して伝えたいメッセージや相手の希望を満たす内容を考えなければならない。そして、ワークショップや体験、座学などどんな形式・手法で行えばいいのかも組み立てる。

打ち合わせ



実施に向けて企画した内容をスタッフや協力してくださる団体・企業などの方々と話し合う。タイムスケジュールの確認、チラシなどの広告や必要な備品、スタッフの人数など、より具体的なことを詰めていく。全員の意識の共有がしっかりとされていることが重要になる。

実施



いよいよ実施の段階です。イベントなら参加者の誘導や搬入・撤収など当日は動きが多くなる。加えて、今後のことも考え参加者の反応や効果も見するためのアンケートなどを用意し、受けた方の声を拾うことも大切。実施後、協力していただいた方々へのフォローアップや今後の食育に活かすため、企画のブラッシュアップなどを行う。